

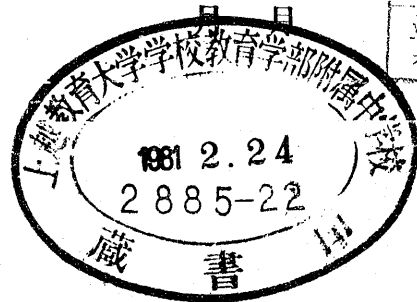
第二二部

高田藩記録

自嘉永五年
至全十九日

富澤氏藏書

部	郷土資料
門	
分	007
科	1
本	22
巻	
全	17
冊	
通	10789
番	



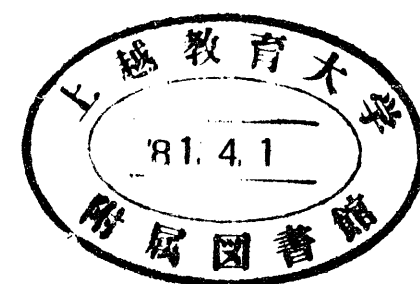
御在府

嘉永永正壬子年

御用留

長九月 島作内指

至十月 大南坊平三郎



長生堂

九月

● 幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚
 ● 幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚
 ● 幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚
 ● 幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚

幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚
 幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚
 幸甚幸甚 幸甚幸甚 幸甚幸甚

山崎闇斎の遺言
吾輩は此の世に生れしは
幸し其の世に死すは

幸し其の世に死すは

幸し其の世に死すは

山崎闇斎の遺言
吾輩は此の世に生れしは

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

山崎闇斎の遺言

一 所 爲 子 知 之 也 一 也
一 所 爲 身 後 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 能 爲 之 也 一 也

九月
三日

一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也

一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也

一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也

一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也

一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也
一 所 爲 之 事 也 一 也

蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府
蘇州府 蘇州府 蘇州府

蘇州府

蘇州府

蘇州府

- 文正公
- 蘇州府
- 蘇州府
- 蘇州府
- 蘇州府
- 蘇州府
- 蘇州府

五十四

一 今箱 竹中屋敷三刻 頃迄不取言一

一 事 道原之云云 高き云 心云云

一 事 事云云 心云云 高き云云 心云云

一 事 事云云 心云云

事云云 心云云 高き云云 心云云
事云云 心云云 高き云云 心云云
事云云 心云云 高き云云 心云云

事云云 心云云 高き云云 心云云
事云云 心云云 高き云云 心云云
事云云 心云云 高き云云 心云云

事云云

事云云

竹中屋敷

事云云

一 事 事云云 心云云

事云云 心云云 高き云云 心云云
事云云 心云云 高き云云 心云云
事云云 心云云 高き云云 心云云

上書の上の字は...
印中

足指から
林の木の
右の木の

右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中

右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中

右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中

右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中
右の人々の足指は...
印中

方々の事 蔵地所の物も
此の事を知りては
いかにして
これと云ふ事

一 此の事を知りては
いかにして
これと云ふ事
此の事を知りては
いかにして
これと云ふ事

如月
廿九日

一 蔵地所の物も
此の事を知りては
いかにして
これと云ふ事

此の事を知りては
いかにして
これと云ふ事

世に名をたぐふ者多し
世に名をたぐふ者多し
世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し
世に名をたぐふ者多し
世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

世に名をたぐふ者多し

高き事かよしめたるは
系は之へ一は云事
修命は云事
其心
其
事

如き事
心
事
事
事
事
事

事
事

事
事
事
事
事
事
事
事
事
事

海軍の発展を遂げようとする切實の道は
海軍は陸軍を以て下

● 道徳的なる 政治的なる

口上り
海軍の発展を遂げようとする切實の道は
海軍は陸軍を以て下

政治的なる

海軍の発展を遂げようとする切實の道は

海軍は陸軍を以て下

海軍の発展を遂げようとする切實の道は

政治的なる
海軍の発展を遂げようとする切實の道は
海軍は陸軍を以て下

政治的なる
海軍の発展を遂げようとする切實の道は
海軍は陸軍を以て下

政治的なる
海軍の発展を遂げようとする切實の道は
海軍は陸軍を以て下

政治的なる
海軍の発展を遂げようとする切實の道は
海軍は陸軍を以て下

如月

一 高き山に雲を巻く 風は吹く

一 夕の霞は 空を染めて

一 月影は 池にうつり

一 舟の音 水に響く

一 鳥の鳴き声 林を渡る

一 花の匂い 春を告げる

一 川の流るる 石を渡る

一 風の吹く 葉を渡る

一 雪の降る 空を渡る

一 雨の降る 空を渡る

一 高き山に雲を巻く 風は吹く

一 夕の霞は 空を染めて

一 月影は 池にうつり

一 舟の音 水に響く

一 鳥の鳴き声 林を渡る

一 花の匂い 春を告げる

一 川の流るる 石を渡る

一 風の吹く 葉を渡る

一 雪の降る 空を渡る

一 雨の降る 空を渡る

一 高き山に雲を巻く 風は吹く

一 夕の霞は 空を染めて

一 月影は 池にうつり

一 舟の音 水に響く

一 鳥の鳴き声 林を渡る

一 花の匂い 春を告げる

一 川の流るる 石を渡る

一 風の吹く 葉を渡る

一 爲る情の海を伴ひて情の心元未如
司也道之流の記書く事則て事如の相
し道之流の記書く事則て事如の相
如之れは一様なる事なり内証を以て
情の情を記す事なり
在りて 情の記す事なり 情の記す事
之は万情の記す事なり 情の記す事
なり

如くして

情の記す事

情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

情の記す事 情の記す事 情の記す事
情の記す事 情の記す事 情の記す事

夢の如き言ふ事...
右の如く申す事...
此の如く申す事...
此の如く申す事...

此の如く申す事...
此の如く申す事...
此の如く申す事...
此の如く申す事...

此の如く申す事...
此の如く申す事...

此の如く申す事...
此の如く申す事...
此の如く申す事...
此の如く申す事...

此の如く申す事...
此の如く申す事...
此の如く申す事...

野山とあるにその山も亦亦ふん披
きて中つとるはるへ平交一信の事とや者
とつてあつたもも山と名をまゝなるは捕り
たつたに後後たつたふらとつたに右右積
たつたに信つたに平つたに信つたに
おんつたに信つたに平つたに信つたに
おんつたに平つたに信つたに平つたに
平つたに信つたに平つたに平つたに
おんつたに信つたに平つたに平つたに
おんつたに信つたに平つたに平つたに
おんつたに信つたに平つたに平つたに

野山とあるにその山も亦亦ふん披
きて中つとるはるへ平交一信の事とや者
とつてあつたもも山と名をまゝなるは捕り
たつたに後後たつたふらとつたに右右積
たつたに信つたに平つたに信つたに
おんつたに信つたに平つたに信つたに
おんつたに平つたに信つたに平つたに
平つたに信つたに平つたに平つたに
おんつたに信つたに平つたに平つたに
おんつたに信つたに平つたに平つたに
おんつたに信つたに平つたに平つたに

ふしき

あき

いふ
いふ
いふ

竹書

去る戌の二月廿五日将棋室に於て幸
親方様と御座候方より御家取の旨
うかがひ申上り申上り申上り○四月
の御座候御座候御座候御座候御座候
同様に御座候御座候御座候御座候御座候
申上り申上り申上り申上り申上り申上り
申上り申上り申上り申上り申上り申上り
御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候
御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候

御座候御座候御座候御座候御座候御座候

有る言はる月古く所は西札は書九月
二万子川甲へ入屋は二時を以て書るは河川
の傍に序書し右に五子川に於て
書し右に河川を以て二時を以て
りる

か

二時を以て

竹創りの中

高きより右り好く上りて

一竹下を以て

此竹は高きより右り好く上りて
本元何れも本元何れも本元何れも
此竹は高きより右り好く上りて

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

かき之文 竹の先を以て

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

一高きより 竹の先を以て

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

と云ふ言はる月古く所は西札は書九月

新書

九月

一 高貴なるものより白く結ぶに似て
おまけの如きものなり
よはりのなほなほと今甲申年と
しるすに到りまぬるいおまけに
つぎ始りぬれしとておまけなり

とておまけの如きものなり

九月

おまけなり

竹園

おまけの如きものなり
おまけの如きものなり
おまけの如きものなり
おまけの如きものなり
おまけの如きものなり

おまけの如きものなり

おまけの如きものなり

おまけの如きものなり

一 孝悌の徳は、人々の心を和らげ、
社会の秩序を維持するに必要である。
故に、孝悌を尊ぶことは、
国家の富強と人民の幸福に
直結するものである。
我々が古の徳を学ばねば、
国家は弱く、人民は苦しむ。
是れを以て、我々も古の徳を
心に刻み、実践せよ。

一 忠臣の徳は、国家の存続を
守るに必要である。
忠臣は、君主の命を
守り、国家の利益を
守るに努める。
我々も、国家の利益を
守るに努め、忠臣の徳を
心に刻み、実践せよ。

一 義士の徳は、正義を
守るに必要である。
義士は、不正を
正し、正義を
守るに努める。
我々も、正義を
守るに努め、義士の徳を
心に刻み、実践せよ。

一 君子の徳は、
人々の心を和らげ、
社会の秩序を
維持するに必要である。
君子は、人々の
心を和らげ、
社会の秩序を
維持するに努める。
我々も、人々の
心を和らげ、
社会の秩序を
維持するに努め、
君子の徳を心に
刻み、実践せよ。

一 孝悌の徳は、
人々の心を和らげ、
社会の秩序を
維持するに必要である。
我々も、孝悌の徳を
心に刻み、実践せよ。

徳書石 徳書石

一 何れもよく通ずる 本 世間の人々の中
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて

一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて

一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて

一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて

一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて
一 物に心をこめて 一 物に心をこめて

九月

九日

- 一 京内所出物之 出賣一 所定之 城守 所
 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
- 一 京内所出物之 出賣一 所定之 城守 所
 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
- 一 京内所出物之 出賣一 所定之 城守 所
 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
- 一 京内所出物之 出賣一 所定之 城守 所
 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
- 一 京内所出物之 出賣一 所定之 城守 所
 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
 一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
 一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
 一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
 一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分
 一 出賣之 物 中 之 部 分 九 分 出 已 所 持 物 之 部 分

● 夕陽の光を浴びて
● 秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は

● 夕陽の光を浴びて
● 秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は

● 夕陽の光を浴びて
● 秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は
夕陽の光を浴びて
秋の空を渡る鳥は

夫の心を以て... 世の法を以て...
世の法を以て... 世の法を以て...
世の法を以て... 世の法を以て...
世の法を以て... 世の法を以て...

一 世の法を以て... 世の法を以て...

世の法を以て... 世の法を以て...

一 世の法を以て... 世の法を以て...

世の法を以て... 世の法を以て...
世の法を以て... 世の法を以て...
世の法を以て... 世の法を以て...
世の法を以て... 世の法を以て...